

# DebianでのOMSA (OpenManage Server Administrator) のインストール

デル (Dell) のPowerEdge製品には、状態を管理・運用するためのソリューションとして、OpenManageが用意されています。Linuxにも対応していますが、Debianで利用する場合は多少の作業が必要になります。ここでは一般的なamd64版をベースに解説していきます。

- i386版での補足→OMSA (OpenManage Server Administrator) をDebian 32ビット (i386) に導入する場合
- ディスクコントローラにSASを利用している場合は、ディスク情報の取得のために別途作業が必要になります (このページの最後で解説)

## Debian用パッケージの入手

OpenManage Server Administrator (OMSA) のLinux版にはRHELとSUSE用のものがありますが、Debian用のものではありません。幸い、サポートRPMパッケージをベースに、ユーザーが作成したDebian用のパッケージがありますので、これを利用します。

- [ftp://ftp.sara.nl/pub/sara-omsa/dists/dell/sara/binary-amd64/dellomsa\\_5.3.0-9\\_amd64.deb](ftp://ftp.sara.nl/pub/sara-omsa/dists/dell/sara/binary-amd64/dellomsa_5.3.0-9_amd64.deb)

75MBほどありますが、Debian上でダウンロードしておきます。

```
wget ftp://ftp.sara.nl/pub/sara-omsa/dists/dell/sara/binary-amd64/dellomsa_5.3.0-9_amd64.deb
```

## 依存パッケージの導入

OMSAのLinux版は32ビットバイナリであることなどから、事前にいくつかのモジュールをインストールしておきます。

```
apt-get install openipmi
apt-get install rpm
apt-get install ia32-libs
```

## OMSAの導入

あとはOMSAを導入するだけです。OMSAをダウンロードしたディレクトリで、以下のコマンドを実行します。

```
dpkg -i dellomsa_5.3.0-9_amd64.deb
```

## 32ビットPAMライブラリの導入 (amd64)

以上で基本的には利用できるのですが、OMSAのWebインターフェイスからのログインの際、PAMの参照でエラーでログインできない状態になります。この対処として、32ビットPAMライブラリを手動で導入します。

以下の3パッケージをダウンロードします。

- [http://ftp.debian.org/debian/pool/main/p/pam/libpam-modules\\_0.79-5\\_i386.deb](http://ftp.debian.org/debian/pool/main/p/pam/libpam-modules_0.79-5_i386.deb)
- [http://ftp.debian.org/debian/pool/main/libs/libselinux/libselinux1\\_1.32-3\\_i386.deb](http://ftp.debian.org/debian/pool/main/libs/libselinux/libselinux1_1.32-3_i386.deb)
- [http://ftp.debian.org/debian/pool/main/libs/libsepol/libsepol1\\_1.14-2\\_i386.deb](http://ftp.debian.org/debian/pool/main/libs/libsepol/libsepol1_1.14-2_i386.deb)

これらを任意のディレクトリ下にインストールします。

```
mkdir tmp
dpkg -x libpam-modules_0.79-5_i386.deb tmp
dpkg -x libselinux1_1.32-3_i386.deb tmp
dpkg -x libsepol1_1.14-2_i386.deb tmp
```

tmpを仮想ルートとしてインストールされた状態になりますので、これを/lib32以下にコピーします。

```
cd tmp/lib/
cp -a libsepol.so.1 libselinux.so.1 /lib32
cd security
mkdir /lib32/security
cp -a pam_unix.so pam_nologin.so /lib32/security
```

最後にライブラリキャッシュを更新します。

```
ldconfig
```

続いてOMSAのPAM設定ファイル/etc/pam.d/omauthで、「lib」の部分を「lib32」に書き換えます。

- 修正前

```
auth    required    /lib/security/pam_unix.so nullok
auth    required    /lib/security/pam_nologin.so
account required    /lib/security/pam_unix.so nullok
```

- 修正後

```
auth    required    /lib32/security/pam_unix.so nullok
auth    required    /lib32/security/pam_nologin.so
account required    /lib32/security/pam_unix.so nullok
```

以上で導入準備は完了です。

## OMSA、Webインターフェイスの起動（動作確認）

動作確認を兼ねて、OMSAのWebインターフェイスを利用してみます。OMSAをインストールしただけの状態では、Webインターフェイスは起動していないので、まずはデーモンを起動します。

```
/etc/init.d/dsm_om_connsvc start
```

このコマンドでOMSA Webインターフェイスが1311ポートで待機するようになります。一応、netstatで1311ポートがLISTENになったか確認しておきます。

```
# netstat -a
Active Internet connections (servers and established)
Proto Recv-Q Send-Q Local Address           Foreign Address         State
tcp        0      0 *:37487                *:                        LISTEN
tcp        0      0 *:sunrpc                *:                        LISTEN
tcp        0      0 *:auth                  *:                        LISTEN
tcp        0      0 localhost:smtp          *:                        LISTEN
tcp6       0      0 *:ssh                   *:                        LISTEN
tcp6       0      0 *:1311                  *:                        LISTEN
:
```

確認できたら、Webブラウザから「<https://localhost:1311/>」（内部）もしくは「<https://<IPアドレス>:1311/>」でアクセスすると、OMSAのログイン画面が表示されます（DRAC同様に証明書の警告は表示されます。参考：[Vista & IE7での対処](#)）。



OMSAのWeb画面

DRACのインターフェイスに似ていますが、ここでは、DRACのアカウントではなく、Debian上で作成したアカウントでログインする点に注意しましょう。ログインすると、ハードウェアの各種情報の参照と操作が行えるようになります。



OMSAでのログイントップ



PERC6i Integratedの物理ディスクに対する情報・操作

## SASディスクコントローラを利用している場合

PERCコントローラではなく、SAS 6/iRなどを利用している場合は、ディスクの情報が取得できない状態になっています。これは、紹介した以上の作業では情報取得に必要なカーネルモジュールが読み込まれていないためです。Webインターフェイスの「ストレージ」欄に何も情報がない場合は、以下の作業を試してみてください。

```
modprobe mptctl
/etc/init.d/dataeng restart
```

Webインターフェイスやomreportコマンド（OMSAによって導入される）などで確認できたら、mptctlモジュールが起動時に読み込まれるように、/etc/modulesに記載しておきます。

- omreportコマンドの例

```
# omreport storage controller
Controller SAS 6/iR Adapter (Slot 2)

Controllers
ID : 0
Status : Ok
Name : SAS 6/iR Adapter
Slot ID : PCI Slot 2
State : Ready
Firmware Version : 00.20.46.00.06.14.10.00
Minimum Required Firmware Version : Not Applicable
Driver Version : 3.04.01
Minimum Required Driver Version : Not Applicable
Number of Connectors : 2
Rebuild Rate : Not Applicable
BGI Rate : Not Applicable
Check Consistency Rate : Not Applicable
Reconstruct Rate : Not Applicable
Alarm State : Not Applicable
Cluster Mode : Not Applicable
SCSI Initiator ID : Not Applicable
Cache Memory Size : Not Applicable
Patrol Read Mode : Not Applicable
Patrol Read State : Not Applicable
Patrol Read Rate : Not Applicable
Patrol Read Iterations : Not Applicable
```

- /etc/modulesの記述例

```
# /etc/modules: kernel modules to load at boot time.
#
# This file contains the names of kernel modules that should be loaded
# at boot time, one per line. Lines beginning with "#" are ignored.

loop
mptctl
```

[ページ情報] 更新日時: 2008-04-17 14:05:43, 更新者: nabeshin

---